

今月の 我がマチの 一番星☆



6時間スイム&ウォーキングリレーを見守る
右田さん(写真右端)ー平成19年12月撮影ー



右田時夫さん

スポーツで仲間づくり

「酪農を志して19歳の時に北海道に来ました」と半生を振り返る右田時夫さんは九州熊本出身。「当時の安平村の成人式にも参加したんですよ」と話し、町の変遷と共に生きてきたと語ります。

小柄ですが、右田さんは丈夫な体の持ち主。「昨年、後期高齢者の仲間入りをしました。が、病気とは無縁ですね」と得意そうに話します。

40歳ころから本格的に始めたスポーツ。北海道水泳連盟準指導員の資格を取得し、せいこドームの温水プールで「6時間スイム&ウォーキングリレー」を主催しました。10年以上続く恒例事業で、町内はもちろん町外からの参加者も増えてきています。

強じんな肉体を持ちトライアスロン大会にも毎年挑戦し、留萌市で開催された大会では

最高齢者として表彰を受け、現在、苫小牧トライアスロン協会の会長という肩書きを持ち、競技者の底辺拡大に努めています。

さらに冬は歩くスキーで体を鍛え、100kmスキーマラソンに過去11年連続出場。歩くスキー歴は20年以上とのこ

とです。

水泳では、次の世代を担う指導者が増えてきている中「今後は裏方として会を支え、家庭菜園をしながらパークゴルフを楽しみたいですね」と健康づくりとスポーツ団体の将来構想を描いています。

「スポーツを続けていられる

のは、体を動かす魅力と、さまざまな人との出会いのためです。競技会という共通テーマで話が弾み、仲間づくりができます」とコメントする右田さんは今後も年齢に合ったスポーツを続けていきたいと目を輝かせていました。

良い社会づくりには良いコミュニケーション

「子どもたちから“交通安全のおばあちゃん”と呼ばれているんですよ」と顔をほころばせながら話す伊藤不二子さんは『安平町交通安全母の会』の会長をしています。若い頃から体を動かすのが好きで、体育指導委員としてスポーツの普及に努めてきました。「しっかりした組織を作るには後継者の育成が課題」と語り、自らも良き人材を育てることに



伊藤不二子さん

努力してきたと振り返ります。また「仕事や子育てをしながらさまざまな要職をこなすことができたのは支えてくれた皆さんのお陰です」と感謝しています。

若いときは、意見や考え方の違いで激しく対立したこともあるという伊藤さんですが、自分の孫のような小学生から声を掛けられることが今一番うれしいそうです。褒めると素直に反応する子どもたち。街頭指導をしていると「おはようございます」と明るくあいさつされると自分も子どもたちから元気をもらおうといます。早朝の登校時間に交差点で立っていると寒さが身にしみることがあるそうですが、子どもたちの楽しそうな笑顔を見ているとほほえましく感じるとのことです。

毎日顔を合わせる子どもにかわいいあだなをつけたり、「学校で一生懸命頑張っておいでよ」と励ますこともあります。

「コミュニケーションを持って人と接することが良い社会づくりには必要ですね」と優しい口調で語ってくれました。



セーフティーコールで安全運転を呼びかける
伊藤さん(右手前)ー平成18年7月撮影ー